



授業の技 その① 「話し方」

10月から11月は、じっくりと落ち着いて学習に取り組むことができる時期です。今月から、指導技術の土台である①「話し方」、②「板書」、③「ノート指導」のポイントをシリーズでお伝えします。1年間の折り返し地点を過ぎた今、改めて日常の授業や指導について振り返ってみましょう。

子どもがよく分かる話し方 「言葉を吟味する」

① 簡潔に、短く

➡ 余分な情報が入らないことで、子どもが大事なポイントを聞き逃さない

授業を参観した先生に聞いてみると、自分では気付かなかった口癖を発見することができます。

これから、今日使う道具を机の上に準備します。

準備する道具は、はさみ、のり、クレヨンの3つです。

全員が机の上に準備できてから画用紙を配ります。準備ができたなら、静かに待ちましょう。

説明

では、準備を始めましょう。→ 指示

② 説明と指示の明確な区別

➡ 何を、どのようにすればよいのが明確になり、子どもが滞ることなく活動に取り組むことができる

話す内容を全て書き出すことで、重複や漏れ、余計な言葉がないか確かめることができます。

★全ての子どもに分かりやすい手立て

- 【例】 ・具体的な数を示す
- ・準備するものを黒板に書く
- ・具体物を提示する 等

★次の活動の見通しをもつことができるようにする



子どもが聞きたくなる話し方 「変化をつける」

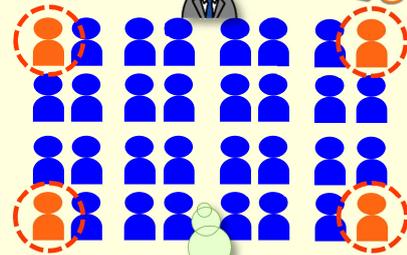
① 意図的な「間」

➡ 子どもがじっくりと考えることができ、話の内容の理解が深まる

子どもの注意を引きもどしたり、子どもの「聞きたい」という思いを引き出したりすることができます。教室がしんとした教室には、適度な緊張感が生まれます。



四隅を意識的に見る



② 表情や声(抑揚、強弱、速さ)

➡ 子どもの関心が高まる

大切なポイントや子どもの注意をひきたいときには、「ゆっくりと」「声のトーンを落として」「小さな声で」「身振り手振りを付けて」等の工夫をすると効果的です。

教師と目が合った子どもは「先生は自分のことを見てくれている」と感じます。それは、安心感や教師への信頼感につながります。



学校行事や学年行事で、主任の先生が学年や学校全体の児童生徒に話をされる姿を目にする機会が多い2学期。人数や場所、内容に応じた話し方の秘訣やコツを聞いてみるのもよいでしょう。

また2学期は、多くの学校で授業研究会が公開され、他校の優れた実践から直接学ぶこともできます。「子どもが集中して聞いているな。」「子どもの思考が動き出した!」といった子どもの姿を引き出した教師の言葉かけや働きかけに注目してみましょう。